



## 50周年の節目にさらなる精進を誓う 美郷町相撲連盟新年初稽古

1月1日、美郷中学校相撲道場で美郷町相撲連盟（伊藤福章会長）が主催する新年初稽古が行われ、会員や町内の小中高生など約30名が参加しました。初稽古の開催にあたり、伊藤会長は「今年は、6月に高校総体相撲競技、8月に東北中学校相撲大会が本町で開催されるほか、連盟も50周年の大きな節目を迎える。選手の皆さんには今年1年、花を添える活躍をしていただきたい」と激励の言葉を述べました。

四股踏みやすり足などの基本稽古で体を温めた後は、本番さながらの取組を行いました。小中学生が先輩力士の胸を借りる場面もあり、力いっぱいぶつかり合う音が道場内に響き渡りました。

## 安全・安心なまちを目指して 交通指導隊・防犯指導隊初出式

1月6日、役場庁舎で交通指導隊（小原則夫隊長）と防犯指導隊（湯川安宏隊長）による初出式が行われ、両隊員あわせて約24名が出席しました。式では松田町長が「目指す姿は安心して暮らせる安全な美郷町。求める姿に着実に近づけるよう、地道に一つひとつ取り組みを重ねてほしい」と訓辞を述べました。続いて、美郷交番の石川和彦所長が「県内で昨年発生した交通事故による死者は61年ぶりに30人台に減少したが、高齢者の死亡事故に占める割合は高い。また、特殊詐欺被害も多く、だましとる手口もさまざまに変化している」と県内における交通事故や犯罪の発生状況を紹介しました。

式の後には、両隊員はそれぞれ定例会を開き、交通安全や防犯活動への決意を新たに今年の活動をスタートさせました。



## セルフケア推進で連携 協会けんぽと覚書を締結

1月8日、町と全国健康保険協会（協会けんぽ）秋田支部はセルフケア推進に向けた包括的連携に関する覚書を締結しました。町では、町民の健康長寿に向けて平成26年10月に「美郷町セルフケア推進方針」を策定しています。同方針に基づく今回の連携により、協会けんぽの町内加入者約6,600人分の統計処理された健診受診データが町に提供されます。その結果、町では74歳までの町民の75%の健康状態を把握することができ、より多くの方の状況を踏まえた健康づくりの取り組みの実施が可能となります。

役場庁舎で行われた締結式には、松田町長と協会けんぽの中田博秋田支部長らが出席。松田町長は「協会けんぽからのデータと町が掌握する国民健康保険のデータを活用し、健康寿命の延伸に向けた取り組みを展開していきたい」と述べると、中田支部長は「今回の連携を契機に町と協会けんぽが協力を深め、町民の健康づくりに役立つことを期待している」と応え、両者はがっちりと握手を交わしました。



▲写真左から中田支部長、松田町長

## 元気に斜面を滑走 後三年スキー場で「スキー教室」

1月10日から12日にかけて、後三年スキー場で町主催のスキー教室が行われ、町内の小学校1年生から3年生の児童約70名が参加しました。子どもたちは、町スキー連盟の皆さんの指導のもと元気に斜面を滑り、スキーの腕前を上達させていました。

後三年スキー場は料金無料のスキー場です。どうぞお気軽にご利用ください。

問●後三年スキー場 ☎0187(83)2707



# 第1回 町議会 臨時会



平成27年第1回町議会臨時会が1月14日に開かれました。審議された議案は次のとおりです。

## 可決された案件

### ■平成26年度美郷町 一般会計補正予算第11号

秋田県七滝土地改良区総代補欠選挙執行に要する経費の追加、道路等の除排雪に要する経費の増額、仙南小学校天井耐震改修工事の増額など、歳入歳出予算にそれぞれ1億3395万2千円を追加し、総額を117億7689万8千円としました。

## 活路と苦悩

美郷町長 松田知己



美郷町消防出初式で  
あいさつを述べる松田町長

# 風

「活路」窮地からのがれ出る方法「苦悩」苦しみ悩むこと」。

「活路」窮地からのがれ出る方法「苦悩」苦しみ悩むこと」。

物事は、道筋があり努力で結果に至る事柄と、道筋が見えず模索で結果に至る事柄に大別できます。申すまでもなく、活路も苦悩も後者に属する言葉ですが、よく考えてみると活路と苦悩は不離一体です。活路には苦悩の過程が必要で、苦悩するからこそ活路があると言えます。ということ、良き活路を得るためには、良き苦悩という過程が必要という結論になります。

では「良き苦悩」とはどういうことかとなりませんが、私の考え方は、まずは苦悩の現状を理性的に把握すること。感情的な把握はモヤモヤ感の原点です。そして望む未来を明瞭に見据えること。意外と漠然とした未来しか見えない気がします。その上で多方面から熟慮、方策を比較検討すること。苦悩から脱したいあまり、比較検討のない安易な方策に陥る危惧があります。さて農業。米価ショックから農業者の苦悩が続いています。苦悩の核心は、農業所得の確保とそれを可能ならしめる営農類型。これまでも散々考え、諸々実践してきたものの、農業販売

額は思うように伸びず経営費は下がらない。「どうすりゃいいのよこの私」という気持ち、分かるところです。

しかし「ちよつと待ったあ〜」です。嘆息でなく思慮に切り替えましょう。3年後に転作廃止が決まっているからです。これは従前とは異質の農政大転換です。従って、改めて自分の現状、例えば労働力や農地・施設、農機具、希望を冷静に把握しましょう。そして世帯所得を踏まえ、農業部門で最低限どれ位の所得を必要とし、その実現に、例えば稲作を主として高値取引可能な米生産に注力するのか、特定の複合作目に注力して所得をあげたいのかなど、腹を括った自分の未来を明瞭にしましょう。その上でどんな方策であればそれを実現できるのか、比較検討して自分のプランを固めていきましょう。行政も3年後を見据え、理解される支援策を検討・準備してまいります。

根拠のない信念ですが自信はあります。良き苦悩は良き活路に繋がることに。